「四季耕作図」（早乙女らが田植えをしている後方で、男たちが囃しています）
（安部家文書1526）

文書館レキシノオト

「音」で読み解く
防長の歴史

♪16

生活ノオト⑧

仕事歌 ～田植え歌～

仕事歌は、仕事の調子を取ったり、共同作業の調子を合わせたり、単調な作業で辛気（しんき）な気持ちを紛らわしたり、あるいはもうひとがんばりの元気を出すために、ほとんどの仕事の場面で歌われました。これらの歌は民謡として残ることも多く、人々にはとても身近な歌でした。

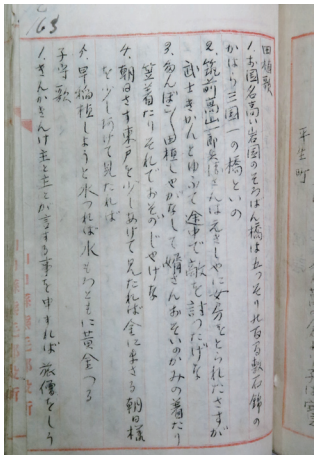
さて、『山口県の民謡』（山口県教育委員会、1982年）や自治体史にみえる民謡・労働歌は、公的な調査ということもあって、上品で、美しいものがほとんどです。しかし現実の仕事歌は、形式的なそれら美しいもののあとに歌う、にやりとするような猥歌や笑歌（「艶笑歌」）の部分を広く持っていました。そしてそれらの多くは、文字に残ることなく、永遠に消え去りました。

たとえば田植え歌は田の持ち主を称えるものや錦帯橋・宮島などの名所を歌うものなどが上記の文献に載っていますが、実際には、そのあとに男女の関係や性的なことがらをあからさまに歌う後半部分を持っていました。江戸時代後期の記録である「注進案」には、そのことをうかがわせる次のような記述がみえます。

・田植ハ（中略）催合（もやい）植仕、大歌と申おかしき歌を唄ひ入梅より半夏生を中にして植付申候（山口宰判上中郷）
・五月田植には村々にても催合にして睦敷（むつまじく）彼のざれ歌抔（など）親子兄弟の聞をも不憚（はばからず）唱ひつゝ植付（奥阿武宰判徳佐村）
・老圃考〔御代官所考〕曰、五月田植時はいづこもいづこも押並て親子兄弟相並びつゝも、男女の中らひの事白地（あからさま）に唱ひ出、其を肚（はら）恥かしとも思はずものするを、いかなる事にかと年頃知まほしく思ひをりしに、（同）

田植えは女性の仕事です。女性たちがそのような「男女の中らいの」歌（大歌・ざれ歌）を、親子兄弟が聞くのもはばからず大声で歌いながら植える風景は、さぞかし壮観だったことでしょう。また、女性であれば、なおさら公的な調査の場で歌ってくれることは少なかったでしょう。しかし、おそらくその「後半部分」こそが、つらい労働のなかには必要だったのだと思われます。

実は、『山口県の民謡』のなかの田植え歌には、そういった歌もいくつか収載されており、貴重な記録となっています（裏面）。



「熊毛郡郷土誌前・後編」
（熊毛郡役所文書 11）

大正８年（1919）に熊毛郡役所学務係が教育資料として作成した地誌。熊毛郡各村の概況や年中行事、仕事歌等を記録しています。

写真は平生町の「田植歌」の部分。ここでも岩国錦帯橋を「お国名高い岩国の　そろばん橋は五つそりの　百間敷石錦のかはら　三国一の橋といの」と歌っています（裏面参照）。

もっとも、村の旧家などで大規模な田植えをする場合には、冒頭の写真のように、

・余分植付仕候者ハ早乙女多人数相集め、胴取と号し男子壱人太鼓を打、歌を諷ふ、早乙女其歌に継き諷ふ、尤胴取之指揮ニ応し太鼓之拍子ニ随ひ植る（熊毛宰判三丘のうち八代村）

といった調子で、胴取りとの掛け合いで植えていたようです。

さらに進んで、田植え時には「青苗祝」と称して実際に「戯れ」ることがあったらしく、当局の厳重の沙汰によって禁止されている例があります。これが男女の戯れであろうことは、容易に想像できます。

・青苗祝と申戯れ仕候へ共近年厳重の御沙汰有之相止申候（前大津宰判深河村）

田植え時の男女の「高揚感」は、盆踊りの時と似たものだったかもしれません。

『山口県の民謡』の内容や歌詞は、現在の県社会教育・文化財課のWebページ「山口県の文化財」にある「民謡データベース」から検索して見ることができます。

http://bunkazai.pref.yamaguchi.lg.jp/folksong/

また、そのときの調査の音声は、山口県立山口図書館で実際に聞くことができます。

ここでは、その中から、田植え歌をいくつか紹介します。

田植え歌は、正条植の普及（明治後期）や農業の機械化とともに消えていきました。

今日のよい日のお田植はじめ
稲の万才御代の数ウー
早苗植えましょうまっすぐヨー
直（すぐ）は神様およろこび

今日のよい日のお田植はじめ
稲の万才御代の数ウー
早苗植えましょうまっすぐヨー

お国で名高い岩国の
そろばん橋は五そりに
百間敷石錦の川原(かわら)
三国一里のそり橋
お国で名高い岩国の
そろばん橋は五そりに
百間敷石錦の川原
三国いちのそり橋
お国で名高い岩国の・・・・・・

（以上が「親歌」の部分）

****

（以下が「大歌･ざれ歌」の部分）

父っさあお前の前の方で
ぶらぶらするのはありゃなんの
あれはわれらをこねくり出した
こね木の棒じゃがエー知らんの
ぶらぶらするのはありゃなんの
あれはわれらをこねくり出した
こね木の棒じゃがエー知らんの
父っさあおまえの前の方で・・・・・・
（繰り返し）

＊由宇町北区の女性（明治34年＝1901生)が伝承していた田植え歌

おいでおいでと　ヨーオ　手じゃ招かれぬ
歌の文句で　ヨーオ　悟りゃんせ

一度寝てみて　ヨーオ　寝肌がよけりゃ
妻と定めて　ヨーオ　寝にござれ

妻と定めて　ヨーオ　寝にくるからは
我身と思うな　ヨーオ　自由にならん

あなたみたような　ヨーオ　牡丹の花が
咲いております　ヨーオ　来る道に

シラサギみたような　ヨーオ　あなたに迷うて
カラスみたような　ヨーオ　苦労する

＊川上村野戸呂の女性（明治21年＝1888生）が伝承していた田植え歌

こよいござれば裏からござれ
前は車戸で音がする　ハーホイ
車戸で前は
前は車戸で音がする　ヤッタナー

あなたおもいに身は細りゃせぬ
思い出さずに忘れずに　ハーホイ
思い出さずに忘れずに　ヤッタナー

思うて通えば千里も一里
会わず帰ればまた千里
帰れば会わず
会わず帰ればまた千里

＊阿東町篠目の男性（明治30年＝1897生）が伝承していた田植え歌。夜這いをうたったもの。